

おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会

令和4年度 事業報告

小笠原世界遺産センター動物対処室の管理運営及び施設を活用した事業実施を通じて、「人とペットと野生動物が共存する島づくり」を実現し、ひいては世界自然遺産に登録された稀有な生態系とそこに生息する野生動物を保全することを目的とし、関係機関・団体との協力のもと、(Ⅰ)外来種による被害や人為的影響等を受ける野生動物の保護、(Ⅱ)ペット由来の外来種である飼い主のいないネコ対策、(Ⅲ)ペット由来の外来種を生み出さないための適正飼養の推進、その他目的を達成するために必要な事業を実施する。

なお、(Ⅰ)、(Ⅱ)については、下部に設置した各部会にて協議会事業の具体的な事項の調整・検討を行っており、(Ⅲ)については、ペット条例の運用を通じて進めている内容もあるため、協議会予算化関連事業以外は、参考情報とする。

(Ⅰ) 外来種による被害や人為的影響等を受ける野生動物の保護に関すること

(1) 小笠原希少鳥獣等に関する連絡調整部会の開催状況【環境省】

○第1回(5月13日)

- ・本部会設置の経緯と目的について
- ・傷病発生時の連絡体制について
- ・その他

オガサワラオオコウモリの骨折・MRSA罹患個体について
希少鳥獣の事故防止への取り組みについて

○情報共有・関係者打合せ等

- ・MRSA罹患個体の野生復帰可能性等について、日本獣医生命科学大 羽山教授のヒアリングを実施。(9/22)
- ・MRSA罹患個体の扱いについて島内打合せを実施。【環境省・小笠原村・IBO】(9/5, 11/29)

→令和3年度に治療のため内地に搬送したオガサワラオオコウモリ2個体からMRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)が検出され、父島島内で感染した可能性が高い事から島内関係個所の検査を実施。野生のオガサワラオオコウモリ及びアカガシラカラスバト、IBO飼育のオガサワラオオコウモリは陰性、動物対処室において一部物品等が陽性となった。動物対処室今後の感染予防対策等に関し協議を行っているところ。

(2) 傷病鳥獣の治療【動物対処室】

- ・令和4年度に保護された野生動物170個体^{参考1}のうち、鳥獣保護管理員等から傷病個体の連絡や相談を受け、診療が必要と判断した6個体及び飼育中のオオコウモリ1個体について、診察・治療(遠隔指示含む)を実施。

- ・MRSA感染症予防対策の暫定的な措置として、7月8日以降の保護個体は、原則動物対処室に搬送せず、遠隔指示及び物品提供のみに切り替え、IBOの飼育施設等において治療を実施（措置内容については、9/5 打合せにおいて関係者間で合意）。
- ・詳細は、次の表のとおり。過年度実績は15～19頁を参照。

表：主な野生動物の対応実績（令和4年度）

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2022	5	30	アカガシラ カラスバト	屏風谷トンネル 歩行(幼獣)	入院、ICU、糞便検査、 皮下点滴・注射、投薬、 MRSA 検査→陰性	2022.5/30~ 6/2	4	2022.6/2 野生復帰
2022	6	24	アカガシラ カラスバト	奥村 うずくまり 尾羽無し	入院、ICU、糞便検査、 皮下点滴・注射、 MRSA 検査→陽性→陰転	2022.6/24~ 7/23~3/31 (入院のみ)	302	2023.4/29 安楽殺
2022	6	30	アカガシラ カラスバト	扇浦 うずくまり 右癒合鎖骨 骨折	入院、ICU、糞便検査、 レントゲン検査、皮下点滴・ 注射、MRSA 検査→陰性	2022.7/1~21	42	2022.7/21 上野動物園へ 搬送
2022	7	11	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ネット絡まり	指示のみ(消毒、皮下点滴・ 注射、MRSA 検査)	2022.7/11~ 8/1	9	2022.9/16 野生復帰
2022	7	18	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ハウス迷い込み	指示のみ	2022.7/22~ 23	2	2022.8/16 野生復帰
2022	7	28	オガサワラ オオコウモリ	長谷 有刺鉄線 絡まり	指示のみ(消毒、皮下点滴・ 注射)	2022.7/28~ 8/9	23	2022.9/16 野生復帰
2018	8	15	オガサワラ オオコウモリ	(IBO 生まれ 飼育個体) 翼膜の外傷	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.11/21~ 1/28	74	2023.2/23 どうぶつたちの 病院沖縄へ搬送 →5/3 帰島 飼育継続中
					指示のみ(内服薬処方)	2023.2/15	1	

(3) 傷病鳥獣のリハビリ補助【動物対処室】

- ・MRSA感染症予防対策のため、リハビリ補助は未実施。

参考1：希少鳥獣等の保護の状況【支庁産業課】

令和4年度に保護された野生鳥獣170個体（父島：93個体、母島：77個体）のうち希少鳥獣は22個体。そのうち野生復帰は10個体、内地搬送^{*}は3個体、飼養継続中は3個体、動物対処室入院中は1個体、死亡は5個体。詳細は次のとおり。

○アカガシラカラスバト：保護7羽

（野生復帰：3羽、内地搬送：2羽、動物対処室入院中：1羽、死亡：1羽）

○オガサワラオオコウモリ：保護11頭

（野生復帰：5頭、内地搬送：1頭、飼養継続中：3頭、死亡：2頭）

○セグロミズナギドリ：保護2羽（野生復帰：2羽）

○アカアシカツオドリ：保護1羽（死亡：1羽）

○アカオネツタイチョウ：保護1羽（死亡：1羽）

※内地搬送：上野動物園、多摩動物公園、どうぶつたちの病院沖縄

参考2：事故未然防止及び事故再発防止への対応状況【支庁産業課、環境省】

○交通事故防止看板の設置（夜明道路：5/6-5/30、小港道路：7/15-8/15、夜明道路：11/25-12/20）【支庁産業課】

○バードストライク防止用のバードセイバーの配付（10枚）【環境省、支庁】

（4）残された課題と対応状況

◆傷病鳥獣への対応方針は、担当機関（環境省、東京都、IBO）で調整した上で、各種保護増殖事業検討会とともに「小笠原諸島における傷病鳥獣救護に関する考え方（仮称）」を整理予定。先立ってMRSA感染防止対策を整理する必要がある、未整理のまま。

⇒動物対処室におけるMRSA院内感染対策の中でも、野生鳥獣対応時の内容については、令和4年度第2回及び令和5年度第1回幹事会において、IBOから野生動物に関わっている獣医師等にヒアリングを行い、同室の運用面への助言や改修・設計の必要等を検討することとなった。

◆上記の考え方に沿って、獣医師のスキル、対処室の設備等も鑑みながら対処室での治療方針も整理する必要がある。

◆母島は獣医師が不在であるが、一時保護飼養委託は野生復帰できるまでの治療や父島への搬送は求めている。飼養期間内で野生復帰できなければ強制放鳥で問題ない。長期飼養が見込まれる傷病希少鳥獣は関係機関の対応が必要であることから調整がつけば父島に搬送している。

◆平成24年度の遺産センターの整備基本計画では、動物対処室に長期入院やリハビリは想定されていなかった機能であるが、協議会の設置目的に野生動物の保護を含めたこと等を受け、平成29年にコウモリ用の簡易的なリハビリケージをセンターとは別の場所に設置する等機能を拡張してきている。上記の考え方の中で、施設面の整備主体や実施範囲、予算措置等も整理する必要がある。

⇒動物対処室に野生動物が入院可能な機能を持たせることについては、令和5年度第1回幹事会において、IBOから野生動物に関わっている獣医師等にMRSAの件と併せてヒアリングを行い、その結果によって、同室の改修・設計等を検討することとなった。

◆油汚染等傷病鳥獣救護に係るWRVとの連携については、引き続き環境省での予算化、動物協議会企画による研修会を検討中。

◆治療費は協議会で当面負担するが、環境省等での整理を求める。

(Ⅱ) ペット由来の外来種である飼い主のいないネコ対策に関すること

(1) 小笠原ネコに関する連絡調整部会の開催状況【IB0】

○第1回(10月26日)

- ・ネコ対策状況共有と課題への取組み

○関係者によるWG・打合せ等

①6/7(環境省・小笠原村・IB0)

- ・三日月山捕獲ラインのルート整備

②6/8(環境省・小笠原村・IB0)

- ・母島北進線等でネコが保護された場合の対応
- ・東京搬送ネコ1000頭到達に関する広報について

③9/7(環境省・小笠原村・東京都・IB0)

- ・東京都獣医師会内地イベント対応打合せ

○セミナー等

- ・野生生物と社会学会「わが国の島嶼における生物多様性保全のための外来イエネコの管理対策の現状と課題」(10/29) ※小笠原のネコ対策を報告

(2) 捕獲ネコへの対応【動物対処室、IB0】

- ・令和4年度に一時飼養施設(ねこ待合所)に滞在していたネコ41頭^{参考1}(過年度捕獲ネコ無し)のうち26頭に、一次的な診察・処置もしくは糞便検査を実施。
- ・衰弱・体調不良個体の4頭(うち入院2頭)に点滴、注射、投薬等の各種処置、内服薬処方、血液検査(入院個体のみ)、搬送先病院向けの治療経過報告書作成等を実施。
- ・一時飼養施設におけるネコの駆虫プログラム補助として、幼ネコ26頭に対する初回駆虫薬選択のための糞便検査を、動物看護師の協力のもと実施。駆虫薬費用は環境省事業で実費負担。

(3) 島内譲渡ネコへの対応(動物対処室、動物協議会)

- ・該当するネコがいなかったため未実施

(4) HP管理、譲渡促進等の普及啓発【IB0、動物協議会】

<島内向け>

- ・チラシ「ノネコについてのお願い」更新
- ・母島小学校5年生総合学習(南崎遠足)11/14・17
- ・世界自然遺産地域連絡会議・科学委員会での事業説明
- ・オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会での事業説明
- ・オガサワラカワラヒワ保護増殖検討会での事業説明
- ・アカガシラカラスバト保護増殖検討会での事業説明

<島外>

- ・東京都獣医師会 1000 頭受入れへのお礼挨拶（村長ほか） 8/26
（タマナ製の東京都獣医師会向け 1000 頭受入れ感謝状を製作）
- ・ネコピンバッジ（譲渡先の飼い主へのお礼用）を 300 個製作
- ・ネコプロジェクトリーフレットを 3000 部印刷
- ・筑波大学小笠原自然遺産演習 8/28
- ・日本獣医師会「2022 動物感謝デー in JAPAN」での活動報告 10/1
- ・明治安田生命社会貢献活動（味スタ）での活動報告 10/8
- ・NHKジャーナル（ラジオ）での活動紹介 10/14 放送
- ・情報誌「地域人」第 88 号 地域発大特集東京島旅 3/15 発売
- ・チャールズ・ダーウィン研究所等の小笠原訪問での解説 1/21
- ・読売新聞オンライン yahoo ニュースコラボ企画の取材対応 2/22 掲載
- ・読売新聞オンライン Web コラム「猫学(ニャンコロジー)」取材対応・連載
- ・HP 運営

（5）搬送状況【支庁産業課、動物協議会】

令和 4 年度に捕獲された 37 頭（R 3 年度 51 頭、通算：1034 頭）を搬送。
そのうち 3 頭は動物協議会負担による有償搬送

参考 1：山域及び集落のネコ捕獲等の状況【環境省、村、IBO】

○捕獲数

令和 4 年度に捕獲されたネコ 41 頭全てがノネコ（R 3 年度は 45 頭ノネコ、1 頭飼いネコ）。ネコ待ちの出産子ネコは R 3～4 年度は 0 頭。捕獲後の衰弱等により搬送前に 3 頭死亡。詳細は次のとおり。

- ・父島山域ノネコ：13 頭（R 3 年度 28 頭）【環境省】
- ・父島集落農地・保護ノネコ：0 頭（R 3 年度 0 頭）【村、環境省、協力：IBO】
- ・母島山域ノネコ：21 頭（R 3 年度 15 頭）【環境省】
- ・母島集落農地ノネコ：2 頭（R 3 年度 0 頭）【村、協力：IBO】
- ・母島保護ノネコ：5 頭（R 3 年度 2 頭）【村、環境省、協力：IBO】
- ・飼いネコ：0 頭（R 3 年度母島 1 頭）※誤捕獲

○捕獲圧

- ・父島山域：43378 罨日（R3 年度 89925 罨日）【環境省】
- ・母島山域：11638 罨日（R3 年度 14488 罨日）【環境省】
- ・父島集落農地：94 罨日（R3 年度 703 罨日）【村、協力：IBO】
- ・母島集落農地：652 罨日（R3 年度 540 罨日）【村、協力：IBO】

○集落内の未登録ネコの状況把握及び捕獲【小笠原村】

母島集落内のモニタリングを通年実施（令和4年度で終了）

参考2：捕獲ネコ受け入れの調整状況【環境省、東京都獣医師会】

○登録病院数 190病院

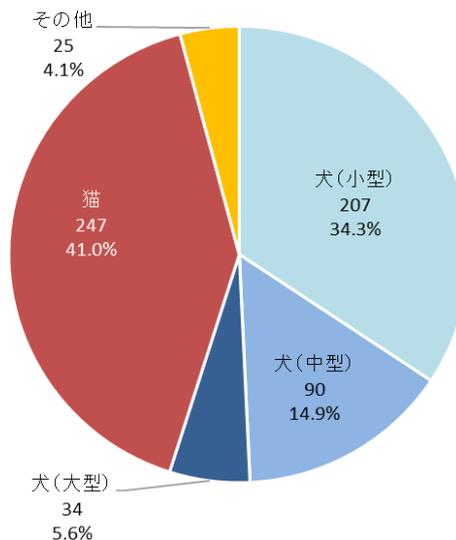
（6）残された課題と対応状況

- ◆母島集落のノネコ対策のモニタリング（保全対象含む）、捕獲体制の戦略検討
⇒農地（中ノ平）では、ヒワ出現把握および村&IBOが連携した捕獲体制がほぼ確立。
⇒集落では村事業の集落モニタリングが令和4年度で終了。より即応性の高い仕組み必要。
- ◆母島北進線等未捕獲地域における島民（観光客）のノネコ保護による不適正飼養化
⇒島民観光客向けの広報チラシを改定。保護連絡時の対応を整理。
※未然防止のためのモニタリング＋捕獲が必要だが、未確立。
- ◆母島未捕獲地域の石門等重要保全エリアでのネコ対策（新規）
※石門でアカガシラカラスバトの確認が急減
- ◆長期間治療が必要な個体の治療方針や日常的な処置の範囲は、ノネコ捕獲の事業主体が東京都獣医師会に助言を仰ぎつつ、懸案に応じて臨機応変に対応。
⇒幼ネコの糞便検査については、体制に合わせて年度ごとに対応の整理が必要。
- ◆母島は獣医師不在のため、母島で捕獲したノネコを父島に搬送する前に早急に措置が必要な場合は、保定や感染症対策等の課題があるため、現状の体制では困難。
⇒体制のある父島への早期搬送を方針として対応中。
- ◆妊娠ネコの扱い
⇒捕獲したネコが妊娠していた場合、妊娠ネコでの引き受けが可能な動物病院を探索し、速やかに搬送する。搬送前に出産した場合、母猫と仔猫をすべてまとめて引き受けが可能な動物病院を探索し、速やかに搬送する。親子まとめての譲渡が不可能な場合、生後56日を経るまでは譲渡しない。その場合の一時飼養については、捕獲事業主体が費用負担することとし、島内譲渡とする場合は、協議会が費用負担する。
- ◆捕獲ネコの島内譲渡体制の現状整理（新規）
- ◆治療費は協議会で当面負担するが、捕獲事業主体での整理が必要。

(Ⅲ) ペット由来の外来種を生み出さないための適正飼養の推進

(1) ペットの診療を通じた適正飼養指導等【動物対処室】

- ・令和4年度は、106個体（ネコ47頭、イヌ51頭、その他（ニワトリ、文鳥、ウサギ）8頭）へのペット診療を延べ603回（内訳は下グラフ参照）実施。
- ・初診の飼い主に対しては、マイクロチップの装着確認と装着推奨を実施。マイクロチップ装着は飼いネコ2件（父島）、飼いイヌ5件（父島）、避妊・去勢手術は0件（動物派遣診療では飼いネコ2件、飼いイヌ6件施術。詳細は10頁参照）。
- ・母島向けには、巡回相談・診療を月1回行うとともに、必要に応じてオンライン診療による薬の処方や応急処置の指導等を実施。
- ・狂犬病予防注射については、イヌの飼い主に村から案内を出し、動物対処室及び母島支所にて集合接種を実施。
- ・受診したペットへは獣医師による飼養状況の把握（当該動物・同居動物の確認）を行い、村に情報共有。診療を通じたペットの適正飼養（飼育環境、食餌等）の相談又は指導を実施。



図：令和4年度の動物種別の診療実績

(2) 飼い主の利用促進を図った無料相談の推進【動物対処室】

- ・新たなペットの飼養に関する事前相談があり、飼養開始前に適正飼養の指導を実施。
- ・外に出てしまう猫の飼い主への適正飼養の指導。
- ・ペット逸走時の探索方法の相談対応。
- ・犬の飼い方ルール（ノーリード、散歩時の糞便）に関する適正飼養の指導。

表：令和4年度の診療内容一覧

診療内容（疾患名）	イヌ	ネコ	その他
泌尿器疾患	56	99	0
皮膚疾患	59	33	0
耳の疾患	34	1	0
歯・口腔内疾患	9	9	0
眼の疾患	28	4	0
循環器疾患	31	14	0
消化器疾患	34	37	3
肝・胆・膵疾患	37	21	0
呼吸器疾患	36	24	0
神経疾患	10	0	0
筋骨格系疾患	4	0	1
血液・免疫疾患	0	7	0
生殖器疾患	0	2	0
内分泌疾患	2	19	0
腫瘍疾患	5	7	0
寄生虫症	0	0	16
感染症	0	0	0
食欲不振・元気消失	52	40	5
その他の症状・疾患	5	16	0
日常ケア	36	12	0
健康診断	11	11	2
内外寄生虫駆除・予防	108	19	4
ワクチン接種（狂注含まず）	36	20	0
その他（物販、相談等）	36	64	16

※1件で複数の診療内容の場合があるため、診療実績と診療内容数の合計は異なる。

表：令和4年度の動物種別カルテ

動物種	カルテ数
犬（小型）	35
犬（中型）	17
犬（大型）	7
猫	61
その他	11

※これまでに受診したその他ペット
 モルモット
 ハリネズミ
 ニワトリ
 ハムスター
 ウサギ
 セキセイインコ
 文鳥

(3) ペットの飼養状況の把握【村、動物対処室】

表：ネコの登録状況と動物対処室受診状況

R5. 3. 31時点	父島				母島			
	2011年度	2017年度	2021年度	2022年度	2011年度	2017年度	2021年度	2022年度
台帳登録数	92	61	51	52	16	11	22	20
新規登録数	-	4	1	6	-	0	1	1
登録世帯数	59	44	35	36	7	6	15	14
最大多頭飼養数	13	4	4	4	4	3	3	3
マイクロチップ装着率	85%	91.8%	100%	98.1%	63%	90.9%	100%	100%
避妊去勢率	96%	96.7%	100%	100%	100%	100%	95.5%	95.0%
室内飼養率※1	41%	83.7%	92.2%	96.2%	25%	27.3%	77.3%	85.0%
受診率(累積)※2	-	36.7%	80.4%	86.5%	-	18.2%	54.5%	80.0%
飼い主受診率(累積)※2	-	38.6%	82.9%	83.3%	-	33.3%	60.0%	85.7%
単年受診数※3	-	26	40	33	-	2	17	14
ワクチン接種数※4	-	-	18	9	-	-	11	8

表：イヌの登録状況と動物対処室受診状況

R5. 3. 31時点	父島			母島		
	2017年度	2021年度	2022年度	2017年度	2021年度	2022年度
台帳登録数	68	54	53	10	6	9
新規登録数	7	3	11	0	2	4
登録世帯数	54	46	43	10	6	8
最大多頭飼養数	7	3	5	1	1	1
マイクロチップ装着率	67.6%	64.8%	64.2%	90.0%	100%	88.9%
避妊去勢率	-	68.5%	77.4%	-	66.7%	55.6%
受診率(累積)※2	47.1%	98.1%	96.2%	80.0%	100.0%	88.9%
飼い主受診率(累積)※2	48.1%	97.8%	95.3%	80.0%	100%	87.5%
単年受診数※3	36	44	41	8	7	10
狂注接種数※5	-	52 (6)	47 (5)	-	6	7 (1)

- ※1：室内飼養は外出時にリード付きも含む ※2：台帳抹消のネコ、イヌ除く
 ※3：台帳抹消のネコ、イヌ含む
 ※4：対処室にて混合ワクチンを接種したネコ（内地のかかりつけ医は含まない）
 ※5：台帳抹消のイヌ除く。接種数には猶予を含み、カッコ内は猶予の件数を示す

(4) 普及啓発【村、動物協議会】

○村民だより

- ・ 転入者への普及啓発（5月：村）
- ・ 動物派遣診療のご案内（10月特集ページ：動物協議会）

○転入者への転入時のペット条例のパンフレット配布（随時）【村】

(5) その他【村、動物協議会】

○動物派遣診療（10月20～29日：動物協議会）

東京都獣医師会の獣医師3名、動物看護師1名による動物派遣診療を6年ぶりに実施した。

- ・ 犬・猫 しつけ教室（母島10/21, 22：支所駐車場、父島10/25～28：扇浦交流センター）
動物の行動学が専門である入交獣医師が、しつけや飼い方について無料で個別にアドバイスを行った。
- ・ 犬・猫 避妊去勢手術（動物対処室10/25～28）
高柳獣医師、野坂動物看護師が、避妊去勢手術を計8件実施した。

表：動物派遣診療対応実績一覧

動物種	雄猫(頭)		雌猫(頭)		雄犬(頭)		雌犬(頭)	
	父島	母島	父島	母島	父島	母島	父島	母島
しつけ教室		1	1	1	7	3	10	3
避妊去勢手術	1			1	2		4	

・ 現地視察

21日の午前中は、母島視察を行った。中ノ平でのオガサワラカワラヒワの保全対策や、南崎での海鳥の保全対策等の現場視察と取組説明を実施した。

24日は、父島視察を行った。岩山でのネコ隊の取組や、ねこまちでの捕獲ネコの一時飼養状況等の現場視察と取組説明を実施した。



母島現地視察



父島現地視察



手術風景



母島しつけ教室



父島しつけ教室



派遣団集合写真

参考：ペット条例の運用【村】

○広報

- ・リーフレットを船待3ヶ所、ビジター、遺産センター、Bシップに設置。内地の観光関係団体等に配布。
- ・パネルを船待3ヶ所、遺産センター、役場環境課ロビー、動物対処室に掲示

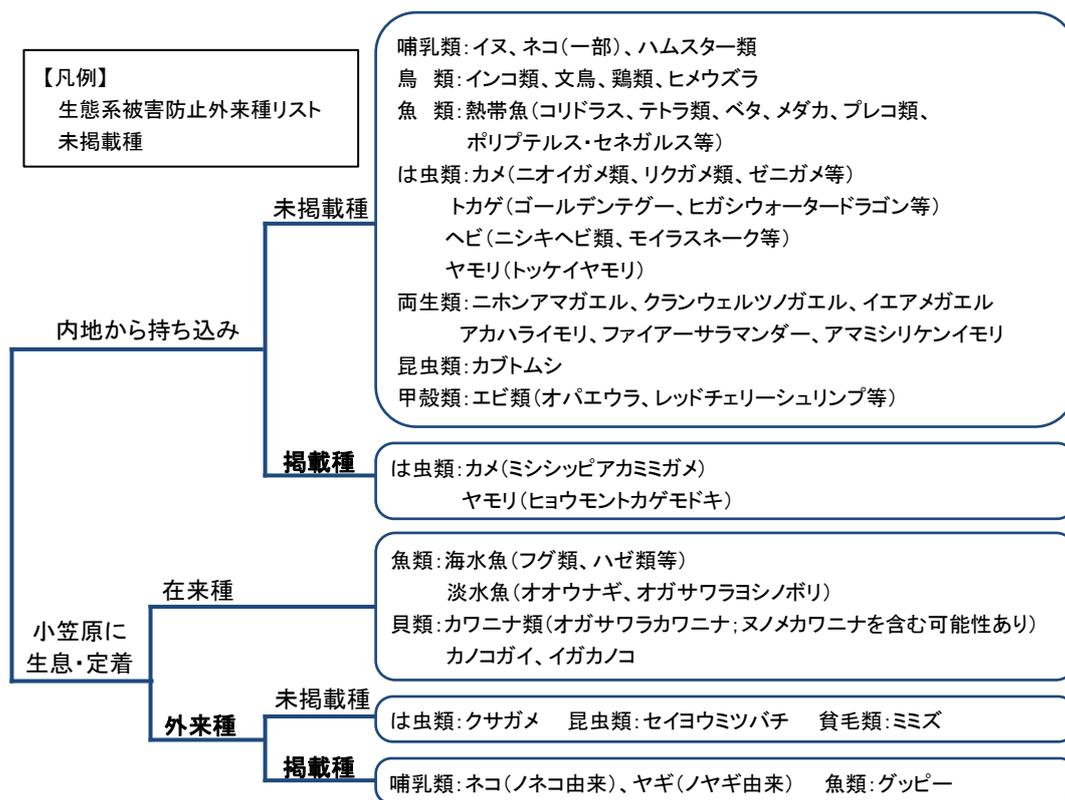
○飼養登録（令和3年4月開始）→148世帯（父120、母28）登録
（内訳は下表、登録動物種は下図参照）

表：飼養登録状況

動物種	猫	犬	その他
登録頭数（父・母）	72（52・20）	62（53・9）	124（110・14）
登録世帯数（父・母）	50（36・14）	51（43・8）	59（52・7）

※ネコ、イヌ、その他のペットを複数種飼養している世帯があるため、重複がある

※“その他”の主な抹消種はグッピー、メダカ、クサガメ、オガサワラヨシノボリ、セキセイインコ



図：登録動物の分類

○登録飼い主向けの対応

- ・飼養登録申請後に飼養登録証を発行（随時）
- ・飼い主案内を郵送にて発行（9月、2月：飼養状況報告のお願い含む）

※逸走事例

- ・猫（避妊未施術、R3年6月逸走、逸走から1月後に報告）
→8～10月に飼い主へ指導・書面による是正勧告（R5年1月現在も生存不明）
- ・へび（R3年度に2度逸走、逸走報告無し）
→R3年5・8月に飼い主への防止策の指導・定期的な状況確認（1頭は逸走4ヶ月後に発見・捕獲、1頭は逸走日に発見・捕獲）
- ・犬（去勢未施術、保護犬、R4年9月逸走、逸走から1週間後に報告）
→報告を受けてすぐに探索・飼い主へ指導（R5年1月現在も生存不明）

○審議会

- ・非公式会合：非公式会合のあり方等を議論（5月17日）
- ・非公式会合：派遣診療期間中、犬の適正飼養のあり方を議論（10月24日）
- ・委員ヒアリング：犬の適正飼養のあり方について（2月）
- ・引き続き、持込み申告体制や犬の適正飼養のあり方などを検討予定

(6) 残された課題と対応状況

- ◆ペット飼養を否定しない環境づくりとノネコのノラネコ化防止については、むやみな餌やり防止等の村民全体の動物との付き合い方の意識醸成を図るほか、獣医師会の協力により、令和4年度は入交獣医師によるしつけ教室を開催。ネコの島内譲渡は村民からのニーズ等に応じ対応予定。
⇒令和5年度は、東京都獣医師会によるしつけ教室、または東京都動物愛護センターによるしつけ教室等も検討する。
- ◆母島のペット診療は診療場所の広さ、衛生面に大きな課題がある。猫の避妊去勢手術については、去勢手術を実施してはいるが、衛生面を考慮し父島での施術を推奨している。
- ◆犬の繁殖防止措置を推進するため、対処室で避妊去勢手術を実施できる体制を整備しつつ、令和4年度は東京都獣医師会の動物派遣診療により犬の避妊去勢手術等を実施した。
⇒令和5年度も、獣医師変更後の体制整備と島内での犬の避妊去勢の需要を考慮し、東京都獣医師会による動物派遣診療を検討する。
- ◆犬猫の適正飼養の強化を図り「小笠原における【ネコ・イヌ】の適正飼養ガイドライン（仮称）」の作成を検討する。
- ◆ペットの診療手数料については、飼い主の診療ニーズを把握し、過剰診療とならないよう適切・適度な診療の実施に努める。

- ◆飼い主の診療ニーズに応じながら効率的な診療を実施するため、診療内容や検査量の精査を継続中。
- ◆村と対処室で連携してペット条例に基づくペットの飼養状況を把握するとともに、ペット診療を通じた飼養状況の確認と適正飼養指導等実施。今後は対処室と村で飼い主訪問等を実施予定。

(IV) 動物対処室の運営【動物協議会】

(1) 実施報告

協議会の事業を推進させることを目的に、関係機関・団体それぞれが実施している事業と連携する形で、野生動物の治療や必要に応じたノネコの処置、ペット診療及び診療行為を通じた適正飼養の指導を実施した。

○獣医師、動物看護師と事務局（環境課自然環境係）で運営

○出前授業・飼育講習

- ・小笠原小学校1年生向けにニワトリ（チャボ）を用いた動物ふれあい授業（1月）
- ・小笠原小学校飼育栽培委員会（4～6年生）と担当教員へのチャボの飼育講習（5月、6月、12月、2月）
- ・母島小学校はニワトリがないため未実施

○動物対処室の視察・見学対応

- 7月 シモヅノ学園国際動物専門学校 先生2名・学生8名
- 11月 東京都家畜保健衛生所 獣医師 穴水真奈氏、佐藤詩織氏
- 3月 帯広畜産大学 獣医学科2年生

○MRSA院内感染対策

- ・令和3年8～9月に同室で治療したオオコウモリからMRSAを検出したとの報告を令和4年1月に受けて以降、ペットと野生動物の診察場所を分離
- ・令和4年5～7月に同室の物品・スタッフからMRSAを検出したことを受け、「MRSA院内感染対策マニュアル」を作成し、暫定的な措置として、新たな野生動物は同室に搬送せず、ペットと野生動物の動線、設備等の分離を徹底
- ・令和5年3月に同室全体の消毒を実施

表：令和4年度の事業別実績

事業名	(I)野生動物の保護※1	(II)飼い主のいないネコ対策	(III)ペットの適正飼養の推進
診療個体数	7個体	26個体	106個体
診療延べ回数	383回 (ハト入院281日(回)含む)	35回	603回
(割合)	37.5%	3.4%	59.1%
平均診療回数	54.7回/個体	1.3回/個体	5.7回/個体
最大診療回数	302回/個体 (入院281日(回)含む)	5回/個体	30回/個体
診療費合計※2	1,601,171円	250,283円	6,759,512円※3
(割合)	18.6%	2.9%	78.5%
平均診療費※2	228,739円/個体	9,626円/個体	63,769円/個体

- ※1 令和4年7月8日以降の保護個体は遠隔診療・治療指示のみ。入院滞在日数・費用含む
 ※2 (I)及び(II)の診療費は作業量の目安として算出
 ※3 決算における手数料収入6,769,193円との差額9,681円は、環境省ノネコ事業に係る駆虫薬分の手数料収入。

(2) 残された課題と対応状況

- ◆MRSA感染症予防対策として、「動物対処室におけるMRSA院内感染対策マニュアル」を作成中。現時点のものは、ペット診療時等の一般的な予防策のみの記載となっているため、野生鳥獣対応時の内容を検討中。
- ◆現在の協議会運営は、村の負担金とペット診療手数料のみで成り立っている。令和5年度は村の負担金が減額となる。各構成機関等による負担の考えを整理する必要がある。
- ◆現在、清掃等を行う用務員が不在となっている。令和5年度の対処室の体制を鑑みつつ、清掃・庶務業務への人員の必要性・雇用形態等を検討する。
- ◆令和4年度に給与規定を一部見直したが、昇給時期、経験年数等も整理する必要がある。

参考：動物対処室の事業別作業量の推移

事業名	(1)野生動物の保護	(2)飼い主のいないネコ対策	(3)ペットの適正飼養の推進
平成29年度			
診療個体数	31個体	22個体	77頭
診療延べ回数	約260回	約190回	666回
割合	23.3%	17%	59.7%
最大診療回数	86回/個体(飼育個体)	146回/個体(糖尿病個体)	42回/頭
平成30年度			
診療個体数	24個体	53個体	76頭
診療延べ回数	194回	314回	634回
最大診療回数	57回/個体	73回/個体	42回/頭
診療費合計※	1,712,400円	2,505,241円	6,452,890円
割合	16.0%	23.5%	60.5%
令和元年度			
診療個体数	17個体(うち飼育個体5個体)	42個体	72頭
診療延べ回数	406回(うち飼育個体191回)	114回	716回
最大診療回数	81回/個体(飼育個体)	17回/個体	52回/頭
診療費合計※	3,013,794円	988,999円	8,190,754円
割合	24.7%	8.1%	67.2%
令和2年度			
診療個体数	15個体	67個体	109個体
診療延べ回数	314回	320回	671回
最大診療回数	56回/個体	52回/個体	38回/個体
診療費合計※	2,617,978円	3,619,737円	7,128,273円
(割合)	19.6%	27.1%	53.3%
令和3年度			
診療個体数	14個体	18個体	113個体
診療延べ回数	215回	41回	701回
最大診療回数	56回/個体	6回/個体	34回/個体
診療費合計※	1,463,627円	297,275円	7,187,195円
(割合)	16.4%	3.3%	80.3%

※平成29年度は診療回数、平成30年度からは飼い主価格をもとに作業量を比較。(I)及び(II)の診療費は作業量の目安として算出。

参考：主な野生動物の対応実績（平成29年度から令和3年度）

保護			種	保護状況	動物対応室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
平成29年度以前に保護された個体、IBO 飼育個体								
2009	11	20	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、糞便検査、 皮下点滴・注射	2017.11/18~21	6	2017.11/21 死亡
2009	12	31	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 健康診断、 元気低下	血液検査、細胞診、 皮下点滴・注射	2018.5/24 2019.7/4~1/28	26	飼育継続中
2011	9	15	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 健康診断	血液検査、内服薬	2019.8/1~3/27	9	飼育継続中
2012	9	27	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 健康診断	血液検査	2017.12/5	1	2018.2/26 死亡
2014	8	5	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	細菌学的検査、 皮下注射、翼膜洗浄、 外用薬塗布	2017.9/21~11/2 1	86	2017.12/11 死亡
2016	6	20	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、皮下注射、 外用薬塗布	2017.6/23~7/20	20	2020.8/10 死亡
2016	8	25	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 爪の外傷	皮膚検査、外用薬塗布、 内服薬、皮下注射	2018.5/10~5/23 、8/16~8/21 2019.10/1~3	9	飼育継続中
2017	1	4	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 翼膜の外傷	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.10/14~3/2 7	81	飼育継続中
平成29年度 下記の他、海鳥類 11羽(シロハラミズナギドリ 2羽、セグロミズナギドリ 1羽、カツオドリ 2羽、 コゲンカンドリ 1羽、ハワイセグロミズナギドリ 1羽、アナドリ 2羽、オナガミズナギドリ 1羽、 シラオネツタイチョウ 1羽)、その他の鳥類 10羽を治療								
2017	4	17	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 キュウリネット 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、内服薬	2017.4/18~6/1 2018.5/26	71	2018.5/27 野生復帰
2017	7	6	オガサワラ オオコウモリ	扇浦 キュウリネット 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2017.7/7~13	12	2017.7/13 野生復帰
2017	8	22	アカガシラ カラスバト	大根山汚水 処理場の沈殿 槽に落下	スワブ検査、皮膚検査、 保温、皮下点滴・注射、 外部寄生虫駆除	2017.8.22	1	2017.8/23 死亡
2017	8	25	オガサワラ オオコウモリ	農セン展示園	血液検査、保温、 皮下点滴・注射、 外部寄生虫駆除	2017.8/25	1	2017.8/26 死亡
2017	9	4	コアホウドリ	父島周辺の 海上	レントゲン検査、保温、 皮下点滴・注射、 外部寄生虫駆除	2017.9/4~14	5	2017.9/15 野生復帰
2018	1	31	アカガシラ カラスバト	清瀬(若鳥)	糞便検査、強制給餌、 皮下点滴・注射、内服薬	2018.1/31~2/9	10	2018.2/19 野生復帰
平成30年度 下記の他、カツオドリ、アナドリ 2羽、メダイチドリ、トラツグミを治療								
2018	5	11	オガサワラ オオコウモリ	コーヒー山 高木果樹 ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2018.5/11~23	21	2018.5/24 野生復帰
2018	6	15	オガサワラ ノスリ	小港ロータリー で衰弱	皮下点滴・注射	2018.6/15~16	2	2018.6/17 死亡
2018	6	27	アカガシラ カラスバト	小学校の 窓ガラスに衝突	死亡確認	2018.6/27	1	2018.6/27 死亡

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 キュウリ ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~7/26	33	2018.8/3 野生復帰 (母島) →2019.6.1 死亡発見
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 ハウス 侵入(絡まり)	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~6	3	2018.7/7 野生復帰 (母島)
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 ハウス 侵入(絡まり)	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~6	3	2018.7/7 野生復帰 (母島)
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 キュウリ ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~13	18	2018.7/14 野生復帰 (母島)
2018	8	8	アカガシラ カラスバト	テグス絡まり	皮下点滴・注射	2018.8/8~9	2	2018.8/9 死亡
2018	8	27	オガサワラ オオコウモリ	都道脇にて 親からの脱落	血液検査、 皮下点滴・注射	2018.8/27~29、 10/24	4	飼育継続中
2018	10	12	オガサワラ オオコウモリ	桑の木山 有刺鉄線 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2018.10/12~ 11/27	57	2019.1/15 野生復帰
2018	10	22	オーストン ウミツバメ	扇浦で人工灯 誘因	皮下点滴・注射	2018.10/22	1	2019.10/24 死亡
2019	1	4	アカガシラ カラスバト	西町で人工物 衝突	皮下点滴・注射、 強制給餌	2018.1/5	2	2019.1/6 死亡
2019	1	26	オガサワラ オオコウモリ	奥村で衰弱(幼 獣)	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2019.1/26	1	2019.1/31 死亡
2019	1	31	オガサワラ オオコウモリ	二見港で衰弱 (亜成獣)	血液検査、 皮下点滴・注射	2019.1/31	1	2019.1/31 死亡
2019	3	16	アカガシラ カラスバト	長谷トンネル 交通事故	皮下点滴・注射、 強制給餌、ICU(入院、 保温)	2019.3/16~26	17	2019.3/26 多摩動物 公園へ搬送
2019	3	24	アカガシラ カラスバト	宮之浜道で 電線衝突	レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 ICU(入院、保温)、包帯	2019.3/24~26	5	2019.3/26 上野動物園へ 搬送
令和元年度 下記の他、メジロを治療								
2019	4	6	オガサワラ オオコウモリ	東町 テグス絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.4/6~7/5	44	2019.7/9 野生復帰
2019	4	6	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 キュウリネット絡 まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.4/6~7/8	56	2019.7/9 野生復帰
2019	5	10	オガサワラ オオコウモリ	奥村 防鳥ネット 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.5/10~6/25	30	2019.7/5 野生復帰
2019	5	20	オガサワラ オオコウモリ	母島元地 ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒 ※母島応急処置あり	2019.5/21~6/25	24	2019.6/29 野生復帰 (母島)

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2019	6	21	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ハウス 迷い込み	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.6/21~7/2	7	2019.7/5 野生復帰
2019	7	4	アカガシラ カラスバト	奥村 ガラス扉内 迷い込み	糞便検査、強制給餌、 皮下点滴・注射、内服薬	2019.7/4~25	21	2019.7/27 野生復帰
2019	7	9	アカオ ネットアイ チョウ	おが丸 うずくまり	皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)、 食餌介助	2019.7/9~26	19	2019.7/27 野生復帰
2019	7	21	アカガシラ カラスバト	大神山公園 ガラス衝突	レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 糞便検査	2019.7/21~26	6	2019.7/27 野生復帰
2019	7	29	オナガ ミズナギドリ	三日月山 うずくまり	診察	2019.7/29	1	2019.8/2 野生復帰
2019	8	9	オガサワラ ノスリ	北袋沢 うずくまり	血液検査、 皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)	2019.8/9~12	4	2019.8/12 死亡
2019	9	7	オガサワラ オオコウモリ	西町 枝ぶらさがり	眼科検査	2019.9/7	1	2019.9/8 野生復帰
令和2年度								
2020	4	14	アカガシラ カラスバト	大神山公園 うずくまり	皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)、 糞便検査、翼洗浄・消毒	2020.4/14~19	12	2020.4/19 多摩動物 公園へ搬送
2020	7	28	オガサワラ オオコウモリ	農セン内 バナナの 繊維絡まり	血液検査、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2020.7/29~9/7	49	2020.9/8 野生復帰
2020	7	29	アカオ ネットアイ チョウ	おが丸 うずくまり	レントゲン検査、皮下点 滴・注射、強制給餌、 ICU(入院・保温)	2020.7/29~8/1	6	2020.8/1 上野動物園へ 搬送
2020	8	12	オガサワラ ノスリ	中山峠 うずくまり	皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)、 強制給餌、糞便検査	2020.8/12~21	14	2020.8/21 野生復帰
2020	11	12	オガサワラ オオコウモリ	西町 骨折・衰弱 (亜成獣)	皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒、 レントゲン検査、血液検 査	2020.11/16~17	4	2020.11/17 上野動物園へ 搬送
2020	12	16	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり (妊娠♀)	レントゲン検査、 血液検査、皮下点滴・ 注射、 翼膜洗浄・消毒	2020.12/16~ 2021.2/16	56	2021.4/5 リハビリ経て 野生復帰
2020	12	21	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり (妊娠♀)	血液検査、皮下点滴・ 注射、 翼膜洗浄・消毒	2020.12/21~ 2021.2/16	50	2021.4/5 リハビリ経て 野生復帰
2021	1	4	アカガシラ カラスバト	旭平 うずくまり	レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 強制給餌、包帯法、 ICU(入院・保温)	2021.1/4~10	12	2021.1/10 上野動物園へ 搬送 (1/14 死亡)
2021	3	12	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり (妊娠♀)	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/12~4/1	28	2021.4/5 野生復帰

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2021	3	12	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/12~30	24	2021.4/1 野生復帰
2021	3	12	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/12~22	11	2021.3/26 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~4/1	17	2021.4/1 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~19	8	2021.3/20 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~19	8	2021.3/20 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~30	16	2021.4/1 野生復帰
令和3年度								
2021	4	14	アカガシラ カラスバト	父島長谷橋 うずくまり	レントゲン検査、 洗浄・消毒、皮下注射	2021.4/19~20	2	2021.4/20 多摩動物 公園に搬送
2021	4	19	アカガシラ カラスバト	父島長谷トンネ ル うずくまり	レントゲン検査、 洗浄・消毒、 皮下点滴・注射	2021.4/19~20	2	2021.4/20 多摩動物 公園に搬送
2021	6	29	オガサワラ オオコウモリ	父島桑ノ木山 ネット絡まり (妊娠中)	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒	2021.6/29~9/2	56	2021.9/10 野生復帰
2021	6	29	オガサワラ オオコウモリ	父島桑ノ木山 ネット絡まり	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒	2021.6/29~8/12	50	2021.9/10 野生復帰
2021	6	29	オガサワラ オオコウモリ	父島桑ノ木山 ネット絡まり (亜成獣)	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒	2021.6/29~7/30	45	2021.9/10 野生復帰
2021	7	25	オガサワラ ノスリ	洲崎ネコ かご混獲	状態確認	2021.7/25	1	2021.7/25 放鳥
2021	8	3	オガサワラ オオコウモリ	清瀬都住近くの 林 ぶら下がり	血液検査、 レントゲン検査、 皮下点滴・注射	2021.8/3~10/6	21	2022.1/3 野生復帰
2021	8	8	オガサワラ オオコウモリ	西町 ぶら下がり (亜成獣) 右翼開放骨折	血液検査、外用薬塗布、 レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2021.8/8~11 ※内地にて MRSA 検出	6	2021.8/11 上野動物園に 搬送 →2023.5/19 安楽殺
2021	8	19	アカガシラ カラスバト	バス営業所 バードストライク	レントゲン検査 皮下点滴・注射、 ICU(入院、保温)	2021.8/19~20	2	2021.8/20 放鳥
2021	9	9	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ぶら下がり 左上腕骨解放 骨折	血液検査、マッサージ、 レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2021.9/10~19 ※内地にて MRSA 検出	11	2021.9/19 上野動物園に 搬送 →12/20 死亡

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2021	9	25	オガサワラ オオコウモリ	母島評議平 ネットハウス 迷い込み	皮下点滴・注射	2021.9/25~10/4	16	2021.10/9 野生復帰 (母島)
2021	11	11	アカガシラ カラスバト	宮之浜 バードストライク	皮下注射、ICU、 レントゲン検査(死亡後)、	2021.11/11	1	2021.11/11 死亡
2022	3	4	アカガシラ カラスバト	母島 村民会館 バードストライク	皮下注射、 MRSA 検査→陰性、 レントゲン検査	2022.3/7	1	2022.3/9 野生復帰 (母島)
2022	3	6	カツオドリ	扇浦海岸 うずくまり	MRSA 検査(死亡後) →陰性	2022.3/8	1	2022.3/7 死亡